

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2019年夏号 vol.12



お店紹介！

カフェ&ナチュラルフード “fu.fu.fu plus”



自販機の並ぶコンビニの裏に、お洒落な自然食カフェレストランがあります。大きなガラス窓の向こうに綾瀬川を挟んで膝子の広い田園風景が広がり、運がよければその先に富士山も見えます。

店主の滝本広子さんのこだわりは肉や魚を使わず玄米や雑穀・季節の野菜を使った体にやさしい『私』然食。素晴らしい景観の中でこころをほぐし、いつもの『私』に新しい時間が訪れますようにとのこと。fu.fu.fuという店名は「ふふふっ」という笑い声。

広い店内はアンティークや手工芸品も飾られ、食事からコーヒータイムまでゆったりとした時間が流れで家族や趣味仲間の語らいに最適です。

岩槻区横根364-2 TEL.048-798-5268

営業時間:ランチ11:00 ~ 14:30 コーヒータイム14:00 ~ 17:00 定休日:木曜

メニュー例:季節の野菜を使ったワンプレート(自家製ケーキ・ドリンク付き)

1,700円、有機コーヒー 550円

◀滝本広子さん



ファーム・インさぎ山の“農ある暮らし体験”

“農ある暮らし”的広がりは米作り、野菜作り、食、健康、暮らし、環境、教育、地域社会、居場所、高齢化社会と留まるところを知りません。皆繋がっています。

いろんな出会いと成長がありました。県警が関わる少年の居場所つくりプロジェクトでは、朝のボソボソ声のあいさつ、正直、最後まで出来るのか?懸念されたそうですが、作業が進むにつれ、目の色が変わり、声も大きくなつたそうです。これまでの人生あまり経験したことのない、期待される、感謝される、それに応えることの心地よさ、昂揚感ということでしょうか。大変身です。

また、別の青年達、人間力養成講座の180人のグループは、農業経験のある人なら尻込みするようなテーマに挑戦してくれました。即ち、40年前に耕作をやめたままになっていた1反の水田再生をやろうというものです。40年を経た樹木伐採、抜根等の作業を始めるとその大変さ加減に熱気が充満します。経験したことのない一体感・充実感です。色々あったが、最後は畔固めのために全員でジエンカ(フォークダンスの一種)を畔の上で三周して締めくつてくれました。共感のひと時でした。

その後も、いろんな団体が加わり、“農ある暮らし体験”は盛況です。近年、幼稚園からの田んぼ実習希望も多く、中には、板橋から電車・バスを乗り継いで来られるようです。

ファーム・インさぎ山 TEL.048-878-0459



お店紹介!

珈琲豆屋



▲マスターの
伊藤 孝さん



見沼大橋から用水西縁を市立病院方向に少し行ったところに、コーヒー豆の香りに包まれた静かなお店があります。木の階段を上ってカラリと扉を開けると、木調の落ち着いた店内の大きな窓から見沼の風景が迎えてくれます。

元々は蕨で自家焙煎のコーヒー豆を販売していましたが、見沼に魅せられて自宅として求めたこの場所のあまりの景色の良さに「お店もやろうか」と始めて14年、世界39種類の生豆を注文を受けてから手焙煎して販売しています。煎りたて、挽きたて、淹れたての味と香りは格別です!リピーターが多いのも頷けます。各種コーヒーは一杯500円(おかわりは250円)、ケーキセット700円など。月替わりのギャラリーコーナーもあり、マスターご夫妻の誠実なお人柄と見沼への愛情溢れた心静かな空間です。

緑区宮本1-14-19 TEL.048-875-8877

営業時間:10:00 ~ 18:00 定休日:月・火・水曜

『そら豆と生姜のまぜご飯』

暑い日におすすめしたい、そら豆と生姜のまぜご飯。そら豆が旨い。

そら豆はあま皮をむき、適量を用意。生姜は出来るだけ細い千切りを適量。千切りした生姜は少々水に放してアツ抜きし水切りして置く。米の水加減はいつもと同じ分量で塩とこぶし出で調整。炊き上がりいたら、千切り生姜をサックリとまぜ込みます。

講演会

見沼たんぽの農地等と斜面林の公有地化政策の歴史・現状・課題

●日時:2019年7月14日(日) 13:30~16:30

●会場:さぎ山記念館学習室 資料代・500円

●主催:未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

・基調講演

講演1:「見沼田んぼの農地等の公有地化:その歴史・現状・課題」

北原典夫氏(推進委員会・事務局長)

講演2:「斜面林公有地化への取り組みについて」

加倉井憲一氏(NPO法人 エコ.エコ代表、推進委員会・副代表)

・意見交換会

狭山丘陵・トロトロの森や首都圏各地で緑のトラスト運動などに取組んでいる市民団体や研究者の方々を見沼たんぽにおいていただき、「見沼たんぽの農地等や斜面林の公有地化政策」についての講演会と意見交換会を開催します。



五斗蒔(ごとまき)地区の農地と斜面林

祭り

「砂の万灯(すなのまんとう)」さいたま市指定無形民俗文化財

万灯の起源は定かではありませんが、江戸時代の中頃には悪疫退散を願い、獅子や神輿・鉢山車(ほこだし)とともに万灯の渡御(とぎょ)が行われていました。万灯は、神が降臨する際の目標物が発達した灯籠です。

現在は、装飾を施した枠の中に灯りをともした「一万灯」を中心に、下部に幕を廻し、上部は「花挿(はなざし)」を飾り、頂上に人形を戴いた高さ6メートルに及ぶ万灯が7基(7地域の保存会)、八雲神社(砂神社)境内(見沼区東大宮1-13-9)に立ち並びます。

公開日は7月14日に近い日曜日です。朝からお囃子連が景気を盛り上げ、組ごとに工夫が凝らされた万灯が午後4時頃に勢揃いします。7基の万灯が勢揃いしますとなかなか壯觀です。境内は多くの人が賑わいます。



境内に並んだ万灯



万灯人形

土呂直売場

JR土呂駅西口で、リーダーの薄田さんを中心に地元農家の方々が家族的な親しみのある雰囲気で、新鮮な野菜を販売しています。早く行かないと希望の野菜、果物などが売れ切れてしま



▲ブランド品「見沼のサトイモ」



▲長嶋一憲さん

います。地産地消のもと、農家の後継者が頑張っています。後継者長嶋さんがブランド品「見沼のサトイモ」を販売しています。

北区土呂町1-12

営業日時:火・木・土曜 14:00 ~ 17:00

取扱品目野菜、果物、花、米、サトイモ、ハツ頭、栗、柿、竹の子など

お店紹介!

Kitchen 味ぬま

見沼区役所のエレベーターで3Fに上がると「味ぬま」があります。入口には日替わりランチのサンプル。メニューはカレー各種・麺類・話題の大宮ナポリタン・定食各種にデザートと豊富で、区役所に訪れた住民、近隣の方で賑わっています。

当日は野菜盛り沢山のカレーを注文しましたが、シェフの作るカレーは全て手作り、坦々麺も本格的な味で人気です。地元の野菜を多く利用し、健康にも充分配慮したメニューで喜ばれています。最近は味の評判を聞き、食事だけを目的に訪れるお客様も増えています。明るい窓からは眼下にサッカー場が広がり、食事をしながら若者たちの歓声が聞こえる時もあります。

なお区役所1階の玄関では毎月最終水曜の11:30 ~ 13:30に「地産地消市・みぬマルシェ」が開催されています。

見沼区役所3階(見沼区堀崎町12-36)

TEL.048-687-1111

営業時間:10:00 ~ 15:30 (ランチ11:00 ~ 14:30)

定休日:土・日・祝日



▲メニューと大宮ナポリタン



▲窓辺から見えるサッカー場

JA尾間木ぐるめ米(マイ)ランド

お店に行くには、浦和方向から463号国道(浦和越谷線)を見沼たんぽ方向に向かい、「東浦和駅入り口交差点」の二つ手前の信号を右折してすぐ左側です。



▲弓削田正巳さん

お店のモットーは、「地産池消の推進」と、「新鮮な地元農産物の販売」を行い、「消費者に農業への理解」を深めることとしています。

店内には、約20軒ほどの地元農家が栽培した新鮮な旬の農産物が並んでいます。取材日には、甘くておいしいトマトが並んでいました。

また、店頭精米も行っており、つきたてのお米が食べられると、お客様から大変喜ばれています。

緑区東浦和9-5-12 TEL.048-873-2006

営業日時:月~金曜 9:00 ~ 16:30

体験型農園を主宰している若手農家の若谷真人さん

緑区で農業を営む若谷さんは毎年、見沼区片柳東で栽培指導付き体験型農園を主宰しています。きっかけは出荷している市内のJAやスーパーでお客様と接して野菜のことを知らない方が多いのに驚き、野菜そのものや栽培方法を理解して頂きたいと始めたとのこと。毎年春に募集し、年間約30種類のヨーロッパ野菜や一般野菜を栽培・収穫し、種や苗、肥料はもちろん、農機具や資材も全て貸し出してくれる所以、手ぶらで参加できるのが大きな魅力です。1区画の畑で1家族では食べきれない程の野菜が収穫できますから、親子3世代やグループで申込される方が多いようです。
参加日程:3月~12月(週末1~2回/月の講習)
会費:1区画(種苗・肥料・資材レンタル料込)

一般野菜部門:約30種 40,000円

ヨーロッパ野菜部門:約35種 44,000円

若谷さんは小松菜・枝豆・くわい他の多種類の野菜を生産していますが、「野菜ソムリエ」として様々な知識は勿論、作り方や食べ方までアドバイスしてくれます。参加人数に限りがありますが、この体験型農園に参加しホントの野菜を育ててみてはいかがですか。

見沼区片柳東 TEL.090-2213-7794



▲栽培方法の指導



▲お子さんと参加

農園風景▶

JA三室ぐるめ米(マイ)ランド

北宿通りから一歩入ったところにある三室グレメ米ランドは、いつも色々とあります。見沼たんぽの農産物であふれ、日に300~400人のお客様が訪れてています。見沼の里芋、八つ頭、山芋、クワイなどが自慢ですが、夏場は朝採れの新鮮野菜が山積みです。

大規模な新病院の建設工事が進むさいたま市立病院のアクセス道路沿いですから通院の際に立ち寄っていただきたいと、所長の小林祐司さんはこの秋の工事完成を心待ちにしています。

緑区大字御室2203 TEL.048-874-1390
営業時間:9:00 ~ 16:30 土・日・祝日定休



▲小林祐司さん

西形ブルーベリー園

さいたま市立病院のすぐ近くで、ブルーベリーの摘み取りができるのをご存知ですか? 北宿バス停すぐ近く、ブルーベリー色のノボリが目印です。病院帰りに立ち寄る人もいるという交通便利な場所ですが、もちろん駐車場も完備。トイレや休息所もあるので、誰でも気軽に摘み取りを楽しめます。

まだブルーベリーがあまり知られていない20年ほど前から栽培を始めたという、気さくで明るいオーナーご夫妻が、安心して食べてほしいと、農薬を使わずに栽培しています。

緑区三室2233 TEL.048-873-5042
営業日時:7月中旬から8月中旬 9:00 ~ 15:00

入園料:500円(持ち帰り別途)



▲オーナーの西形正道さんと奥様の喜代江さん

オーガニックハーベスト丸山さん



▲丸山恵美子さんと文隆さん

丸山さんは大学で農業を学び、園芸関係の企業に就職。その後、さいたま市の農政部門や都市計画部門で勤務され、13年前に脱サラして3,000m²から農業経営体として自立。現在は、6haほどの農地で、スイスへ農業留学をされた奥様と5名の社員の方々と力を合わせて多品目の路地野菜を栽培

NPO法人・見沼保全じゃぶじゃぶラボ



代表・小林節子さんと村上明夫さん▶

31年前の1988年に、首都圏20～30キロ圏にあり、厳しい都市開発圧力にさらされている「大規模田園緑地空間・見沼田んぼの保全・活用」を目的に、十数の市民団体で「見沼田んぼ保全市民連絡会（代表 村上



明夫さん）」が結成されました。

トラスト1号地となった斜面林を墓地開発から守り、そこに隣接した見沼代用水路の歴史的な原形を保全する区間を遺すなど、貴重な自然環境や歴史資産を守るとともに、毎月のゴミ拾い活動や市民農園活動、湿地調査、盛り土調査等を行なながら保全運動の連合組織として活動を展開してきました。その中のメンバーが中心となり、18年前から水田耕作をしています。

この団体の水田は、「不耕起・冬水栽培法」によるお米作りです。水田を耕さず、冬も水田に水を張り、土壤生物の力を借りて土づくり・米づくりをする岩澤信夫氏が作り出した農法です。現在6反ほどの水田で継承しています。「人と環境にやさしい水田」をめざす活動を持続していくため、2006年には、NPO法人となり活動を続けています。

NPO法人・見沼保全じゃぶじゃぶラボ 代表 小林節子さん
緑区大字中尾 2427 TEL.048-873-1961

されています。

この地域にあった作目を、徹底した機械耕作で栽培し、「見沼の絆」をブランド名に、順調に経営面積を拡大しています。

販売ルートもデパートやスーパーの直売コーナー及び農協の直売所など多方面にわたっており、見沼たんぽ地域のすぐれた農業経営体を代表する「気鋭の農業経営」として評価されています。

そごう大宮店での「農業女子フェア」の開催

奥様の恵美子さんは、県内の「農業女子」6名のメンバーと一緒に、自ら栽培した野菜の加工品やおいしい調理法などを、そごう大宮店のデパ地下でアピールする「農業女子フェア」を開催しています。

4月に引き続き6月1日と定期的に開催されるということで、支援している県からも「農業女子の活躍で埼玉農業はますます元気になる。」と期待されています。丸山さんの製品は、「ニンジンジュース」と「ユズジュース」で、とてもマイルドなおいしさでした。

見沼区蓮沼 1694 TEL.048-687-0140

明夫さん）」が結成されました。

トラスト1号地となった斜面林を墓地開発から守り、そこに隣接した見沼代用水路の歴史的な原形を保全する区間を遺すなど、貴重な自然環境や歴史資産を守るとともに、毎月のゴミ拾い活動や市民農園活動、湿地調査、盛り土調査等を行なながら保全運動の連合組織として活動を展開してきました。その中のメンバーが中心となり、18年前から水田耕作をしています。

この団体の水田は、「不耕起・冬水栽培法」によるお米作りです。水田を耕さず、冬も水田に水を張り、土壤生物の力を借りて土づくり・米づくりをする岩澤信夫氏が作り出した農法です。現在6反ほどの水田で継承しています。「人と環境にやさしい水田」をめざす活動を持続していくため、2006年には、NPO法人となり活動を続けています。

NPO法人・見沼保全じゃぶじゃぶラボ 代表 小林節子さん
緑区大字中尾 2427 TEL.048-873-1961

人と環境にやさしい農業の講演会

「農産物と販売」について

期日:2019年7月16日(火) 15:30～17:00

場所:七里公民館 大会議室

参加費:500円(資料代等)

講師:(株)グリーンワールド(そごう大宮店) 野菜バイヤー 浜本 洋平 氏

問合せ・申込先:黒澤兵夫 kurokawa@peach.ocn.ne.jp

近年は生産者が消費者に直接販売することが増えていますが、消費者とのふれあいを持っていない農家さんは少なくありません。講演では購入者と直接のやりとりや、消費者の声を聞くこと、また野菜や栽培方法などの魅力をダイレクトに購入者に伝えられるなどの経験をもつバイヤーさんの講演です。

良い野菜を作ることだけでなく、より儲かる販売方法についてもお話をします。是非、農家、生産者や関係者、一般の方のご出席をお待ちしています。



Information

氷川女體神社・名越大祓いツアー

「輪くぐり」「大祓え」と呼ばれる行事で、江戸時代より続く夏越しの行事です。月遅れの7月31日、罪穢れを人形（ひとがた）に移し、社頭を流れる見沼代用水西縁に流します。その後、境内の鳥居に取付けられたマコモという植物で作った輪を「8の字」にくぐります。罪穢れを人形に移して水に流し去らせることにより、悪疫を防ぎ、秋の農繁期の健康を祈願するものです。昔ながらに神官、氏子、参拝者が同時に一体となって行われる貴重な神事・お祭りです。ご一緒に参加しませんか。

2019年7月31日(水) 13:45集合(小雨決行)

●集合場所:東浦和駅前広場(14時前後発のバスに乗車)

●コース:東浦和駅 ⇒ 朝日坂上バス停 ⇒ 氷川女體神社(名越の大祓え参加) → 見沼氷川公園 → 芝原小バス停 ⇒ 東浦和駅(16時45分解散後、希望者と暑気払い予定)

●歩行距離:約4km、歩行時間:約2時間

●参加費(資料代等):一人300円(バス代は含まれません)

●先着15名様

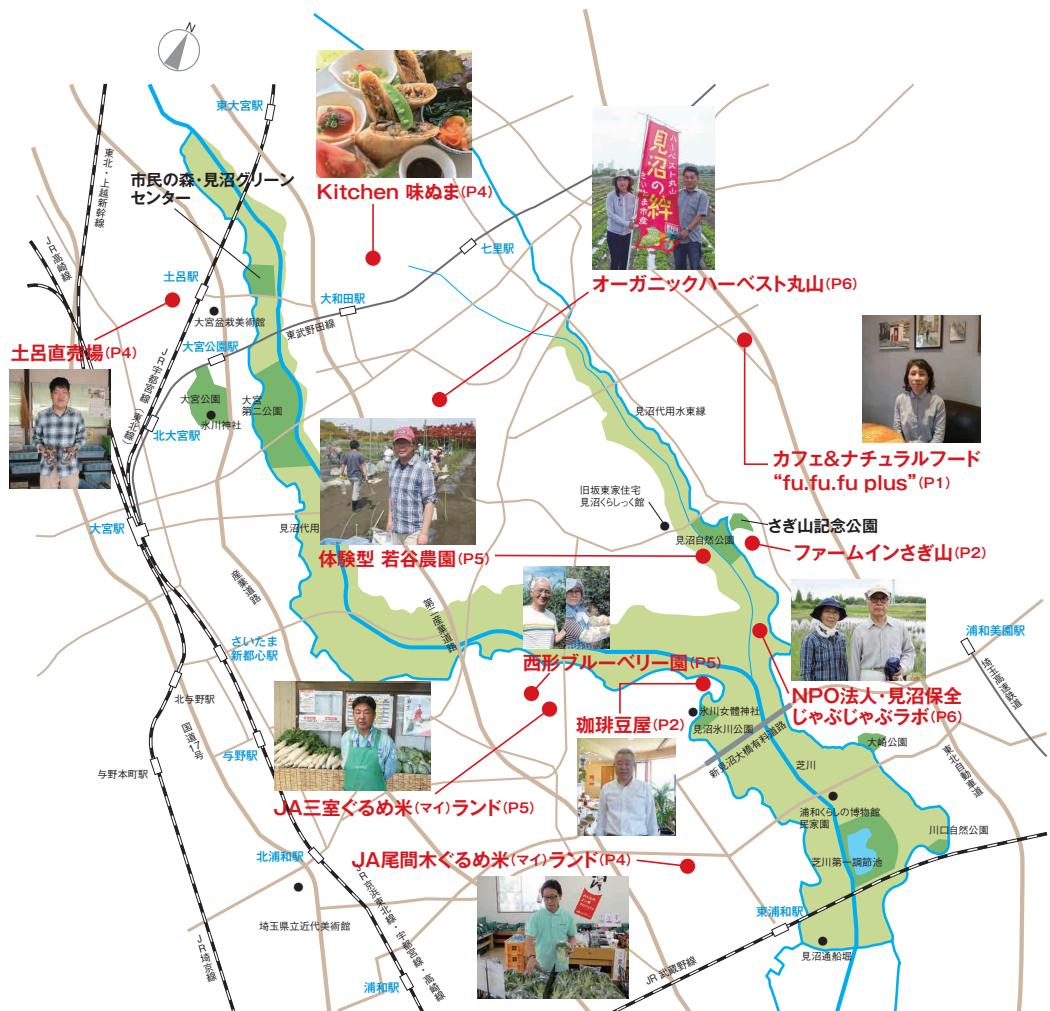
※ツアーは傷害保険等には加入していません。必要でしたら各自ご加入ください。

●参加申込:黒澤兵夫 kurokawa@peach.ocn.ne.jp

TEL.080-1038-6712 FAX.048-687-5543 http://www.minuma-guide-club.com/#hyousi



今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2019年 夏号 vol.12

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ

発行日：2019年6月5日

We
Love
Minuma

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様からの助成金で印刷・発行しております。